

第 58 回全国学童保育研究集会（20231104~20231105）レポート

【クラブ】（ あおぞらクラブ ）

【名 前】（ 大参凌久 ）

① 2 日目に参加した分科会のタイトルをお書きください。

第（ 1 ）分科会 （ ③ 学童保育指導員の仕事ってなァに？ ）

※全体会のみに参加の場合は、全体会の記念講演のタイトルをお書きください。

② この分科会を選んだ理由をお書きください。

指導員としての経験が浅く、「指導員の仕事」についての理解がまだ少ない中で

少しでも今後の業務に活かしていける分科会を受講できればと思いました。

そのほかにも、自分の在籍するクラブだけでなく他県クラブの指導員さんが学童保育の仕事についてどのように捉えて実践に移しているのかを知るきっかけにしたいと思い受講しました。

③ 2 日間の全体会と分科会で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

学童保育は「安心して働きたい」という保護者の願いから生まれ、継続的な「生活の場」を保障することが役割となるというお話があったように、日頃学校が終わってからの時間や長期休暇中の多くの時間を子どもが過ごす場所として、保育を通して役割を果たしていくことが学童保育指導員の仕事のひとつでもあるなと感じました。

上記の役割を果たすために、「それぞれの心身の状態を確認・把握する」「子どもの安全を守ること」を欠かさずにしていくことが重要となり、指導員だけでなく、子どもと保護者とともに学童保育での生活内容を豊かにする継続的な営みを大切にしていきたいなと思います。

学童保育所が子どもの「居場所」となるために、のなかで、子どもの行動には必ず背景があり、うまく表現できなかったり、表し方が違う子どもたちもいるという話があり、自分が現場で保育を実践している時にも子どもの行動に悩まされる場面も多くあります。その時にも子どもがとった行動の背景を探ってみたり、それぞれの子どもがよく使用する表し方を考えるだけでその後の対応や声掛けに変化をつけていくことが可能になり、選択肢を増やしていくことができると感じたので日頃から様々な角度から見る癖をつけていきたいです。

テキストに「当事者意識」を持ち続け「考えることをやめない」とあるように、昨今さまざまな事件や問題が絶えず起きているなかで自分自身が当事者であるという意識を常に持ち「学童保育」について常に考え続けることが学童指導員として大事なことであり、今後の学童保育をより良いものにするためにも継続しなければいけないことだと強く感じました。

※提出されたレポートは、当会の広報誌に掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※常勤・専任指導員に手渡し、または FAX：0564-32-0325 までお送りください。